

マチに学び都市を楽しむ／まちづくりNPO

特定非営利活動法人 もうひとつの旅クラブ

2023 年度(第 22 期)事業報告書

1. 旅クラブが 2023 年度に取り組んだ事業実績

2023 年度は「大阪まち遊学」、「ご来光カフェ」といった、これまでに開発・実践してきた事業を継続しつつ、「大阪まち遊学」では過去参加頂いたお客様も含めた複数体制による新たなコース作りに取り組み、コース内容のクオリティを向上することが出来た。また、何年かぶりに「もうひとつの旅談義」を開催、新型コロナ禍で開催出来なかった 20 周年イベントのリベンジを果たすことが出来た。

前年度に続き実施した「もうひとつの旅」においては、岐阜県の大治見・恵那を訪問し、DMO 組織で地域活性化に活躍する関係者及び団体等と意見交換・ヒアリングを行うことで、知見を高め、ネットワークの拡充に繋がった。加えて、訪問先の観光資源を旅クラブ的視点でアレンジして従来と違った魅力を見出すなど、旅クラブの真骨頂を遺憾なく発揮する旅が出来た。今後も活動の魅力づくりの 1 つとして継続的に展開していきたい。各活動についての新聞、雑誌、ホームページ、ブログ、SNS における情報発信も充実し、「ご来光カフェ」や「大阪まち遊学」などの集客にも結びついてきているといえる。

以下が本年度の主な事業項目一覧である。

- (1) 「ご来光カフェ 2023」の企画・運営支援
- (2) 「大阪まち遊学 2023」の企画・実施
- (3) 「大阪川床・北浜テラス」の運営支援
- (4) 「もうひとつの旅 ～丹後天酒まつり および ～多治見 恵那」の実施
- (5) 「もうひとつの旅談義」旅クラブ約四半期の夕べ（西表島オーパ！出版記念）の実施
- (6) 情報提供、提言活動事業

これら事業の詳細や組織内評価分析を以下に報告する。

(1) 「ご来光カフェ 2023」1 週間だけの夜明け伝説 の企画・運営支援

【事業趣旨・目的】

市民共有の資産である「中之島の水辺」を舞台に「都心の自然」という魅力の発掘を行い、水辺という公共的空間の過ごし方、使い方を多様な側面から提案してきたご来光カフェの企画・運営主体を長期間主体的に関わってくれているボランティアスタッフを中心とする「ご来光カフェ実行委員会」に委ね、後方支援や新スキームの検証、それらの調整過程を事業に位置付けて、5 年目の実施となった。コロナの制限は無くなったものの、設備状況は変わらない中で、ご来光カフェは今回で 18 回目となる。

【事業内容】

- ・ 期 間： 2023 年 9 月 30 日(土)～10 月 4 日(水)
- ・ 営業時間：午前 5:40～7:00
- ・ 場 所：大阪水上バス淀屋橋港栈橋
- ・ 内 容：①栈橋の設え、準備日程や各種手続きの指導や協力
②カフェ期間の運営に対する協力
③専用ホームページ (Facebook) による PR の協力
④継続的な開催のための賛同者・ボランティアスタッフ募集・運営の協力
- ・ 実施主体：ご来光カフェ実行委員会
- ・ 協 力：大阪水上バス株式会社、NPO 法人もうひとつの旅クラブ



【事業成果】

2023 年も昨年同様、早朝より他所で淹れたコーヒーを 50 名限定で無償提供、お客様には運営協力金のお支払いを依頼するかたちでの開催となった。コロナによる各種制限はなくなったものの、設備の制約から同じ運営方法、サービス体制を踏襲している。

ご来光カフェ期間中の来訪者数は 193 名で昨年の 244 名を大きく下回った。期間中唯一の日曜日に天候がすぐれず曇りから雨が降り出すこととなったため、多くのお客様が二の足を踏んだものと思われる。5 日間の期間中、朝日を見られなかったのはその 1 日だけであった。今年はカフェから見える生駒山の山並みに支障となる高層ビルが完成し、例年にはない 10 月 4 日までの開催となった。この日時設定は今後も続くこととなる。

フェイスブックの開催告知（今年は 9/11）については、リーチ 3714 件（昨年 4112 件、一昨年 4374 件）・シェア 27 件（昨年 19 件、一昨年 42 件）となり微減・微増、ページフォロワーは 1503 名（昨年 1488 名、一昨年 1291 名）にて微増となっている。

スタッフについて、実施の 5 日間で延べ 52 名（10 名/日）、全日参加を申し出てくれる通称コンプリーターは 7 名で昨年と同数を保った。1 日平均 10 名は適度な数で、特に人数調整をせずとも、スタッフは永年の経験を踏まえて自主判断で必要そうな日にシフトを入れてくれている。

このようにご来光カフェはお客様、スタッフとも成熟期を迎えており、とても安定した状況である。こんな時こそ、当初のコンセプトに立ち返り、水辺の素晴らしい空間と時間をゆったり楽しめるカフェを追求していきたい。

【活動写真】



【主担当】岩田理事、岸田副理事長、磯上委員、協理事長

(2)「大阪まち遊学 2023」の企画・実施

【事業趣旨・目的】

自分が身近に生活するまち（居住地でも勤務地でも構わない）を旅人の目線で歩いてみる。普段なにげなく接しているそのまちにいままで気がつかなかった魅力を発見してしまう。

その魅力をその人の視点で紹介、自慢し、再び訪れたいさせる。旅人とジモティとの出会いを生み出す新たなコミュニティ・旅のプログラムを造成しまちの活性化を促進する。



【事業内容】

例年大阪まち遊学は1コースに1担当者の体制でコース造成を行っていたが、今年度は3コースとも複数人で分担してコース造成を実施した。特に「たにまちノボッテオリテ」においては、過去に大阪まち遊学に参加いただいたお客様も準メンバーとしてコース造成に参画してもらった。1コースを複数人体制で作ることによって、以下のメリットが発生し、コース自体のクオリティが格段に上がったと考える。

- ・各担当者がいろいろな視点でコースを作成するので全体のクオリティがアップする
- ・各担当者の個性や解説方法も異なるためバリエーションに富んだ案内が出来る
- ・コース発案者に掛かる負担が分散することで、担当箇所への注力、時間を掛けられる
今後もこの複数人体制でのコース造りを積極的に採り入れてゆきたい。

【事業成果】

以下の3コースを実施した。

実施日	タイトル	参加数 (お客)	スタッフ 参加
5月28日(日)	都市環境デザイン会議 JUDI まち歩き (うめきた 中崎町 中津)	6名	5名
1月13日(土)	たにまちノボッテオリテ	11名	5名
1月27日(土)	大ウメダの周縁をめぐる	10名	5名
合計		42名	



JUDIまち歩き



たにまちノボッテオリテ



大ウメダの周縁をめぐる

【主担当】 協理事長、岸田副理事長、森副理事長、福田理事、米谷理事、岡本理事

(3) 「大阪川床・北浜テラス」の運営支援

【事業趣旨・目的】

北浜テラスは、今年は新規川床なし、2店舗開店。キタハマミズムの運営開始。
利用者数は過去最高となる 22.2 万人（2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）

【事業内容】

①各種会議

- ・総会（2023 年 6 月 2 日）
- ・理事会（原則毎月 1 回）

②テラスの設置・運営、テラス新設への支援

2 店舗の出店

- ・212
- ・world tea labo
- ・平和不動産株式会社／地位継承の覚書

③キタハマミズム舟寄場の舟運活用の社会実験、運用開始

- ・水上安全協会との運用ルール合意、大阪府都市魅力・西大阪治水事務所との調整
- ・秋の水都大阪ウイーク「中之島まんぷくクルーズ祭」への参加

2023 年 10 月 7 日（土）11:00～17:00

乗船者：来航 6 名、出航 14 名



④正会員、川床会員のヒアリング

【主担当】 泉理事、福田理事

（泉、福田は北浜水辺協議会の理事を兼ねる）

(4)-1 「もうひとつの旅～丹後天酒まつり」の実施

【事業趣旨・概要】

京都府北部・丹後地方は「海の京都」と呼ばれ、稲作文化発祥の地とされる同地域は、日本酒造りの始まりの地ともいわれている。良質な米と、それぞれ水系の違う綺麗な水を活かし、昔ながらの酒造りを続ける酒蔵が多く点在している。「丹後天酒まつり」は、丹後地方で毎年5月の最終土日で行われる日本酒の蔵開きのイベントで、2023年は第7回目の開催となった。9つの蔵元が参加し、地酒を楽しんでもらえるよう、蔵見学や地元食材を使った食のブースを設けるなど蔵元自らが企画を行っている。市町村の境界を超えて実施され、丹後地方の風土や文化を感じられる日本酒イベントの取り組みについて学ぶことを目的とした。

【事業内容】

- ・日 時：2023年5月27日（土）
- ・場 所：京都府舞鶴市・宮津市・綾部市・福知山市

関西発着（大阪・京都・神戸）の日帰りバスツアーが販売されているが、今回は京都北部を走るローカル線「京都丹後鉄道（丹鉄）」に乗って3つの蔵を周遊する行程とした。最後に福知山市を訪れ、銀行跡地に誕生したビール醸造所「CRAFT BANK」や新町商店街のレンタルスペース「アーキテンポ」などを視察した。

<訪問先その1>池田酒造（舞鶴市）

明治12年（1879年）創業。少量生産の小さな蔵で、仕込み水は、蔵のすぐ横を流れる由良川の伏流水を利用し、米は由良川流域の地元育ちのものを中心にしている。



京都丹後鉄道（丹鉄）



池田酒造（舞鶴市）



酒蔵への道のり

<訪問先その2>ハクレイ酒造（宮津市）

天保3年（1832年）創業。蔵の目の前の山に湧き出る水と、地元の農家が丹精込めて育てた米を使い、創業当時の醸造方法を継承する。代表銘柄は、大辛口の酒呑童子。

<訪問先その3>若宮酒造（綾部市）

大正9年（1920年）創業。新たな市場を開拓するために「若者が飲みたい日本酒」を地元の産学連携プロジェクトで開発した。綾部高校農業科の学生が栽培・収穫した酒米「五百万石」を使い、福知山公立大学地域経営学部の学生が商品企画と酒づくりを担当、京都工芸繊維大学デザイン専攻の学生がラベルデザインを担当した。これらの取り組みについて、福知山公立大学 谷口知弘教授より話をお伺いした。



ハクレイ酒造（宮津市）



若宮酒造（綾部市）



新町商店街（福知山市）

参加者：岩田、岡本、福田、森、脇

【主担当】協理 森、副理 岩田

（4）-2 「もうひとつの旅～岐阜県八百津・恵那・中津川・多治見」の実施

【事業趣旨・概要】

「食」による地域活性化は、過疎化や高齢化が進む地域において観光や地域のブランディングの強力なコンテンツであり、特産品や名産品を活かした様々な施策やイベントが全国各地で行われている。2023年度の「もうひとつの旅」では、この成功事例のひとつ、岐阜県中津川市が発祥とされる銘菓「栗きんとん」に注目。旬の栗菓子求めて全国から訪れる観光客に混じって加茂郡八百津町や中津川市等の和菓子店が集中するエリアを散策しつつ、これを20種買い求めて食べ比べ、楽しみながら食文化の厚みと「食」の吸引力を実感した。

さらに恵那市笠置町の中山間地域、木曾川をのぞむ高台にある“泊まれる古本屋”「庭文庫」を訪問。古本好きの若い夫婦が古書店のない同町で、良書とこちよ読書空間を提供すべく開店した宿泊施設付きの古本喫茶である。同店はパーソナルな書物との出会いやイベントを通じ、地元民やよその土地から訪れた人々との文化的・人的交流の場となっており、個人が始めた“小さなまちおこし”の可能性について考えさせられた。

対して、地元の多様な関係者を巻き込みながら、綿密なマーケティング等の科学的アプローチを取り入れ、俯瞰的な地域経営の視点に立って効率的に観光地の魅力を高めて地域の「稼ぐ力」を引き出すDMO（Destination Management /Marketing Organization）にも目を向けてみた。いわば、観光地域づくりの舵取り役・司令塔となる法人による“大きなまちおこし”である。そこで多治見市の「たじみDMO」にインタビューを行い、中心市街地の活性化と産業・観光振興についての取組みとその成果の具体例を視察した。

そのほか400年ほど前に築かれた石積みの「坂折棚田」（恵那市中野方坂折）や、自然の岩山の地形を有効に生かした“岐阜の天空の城”と称される「苗木城址」（中津川市苗木）を巡り、岐阜県東南部の歴史と風土に触れた。

加えて、多治見市で大正時代に始まり、戦後に隆盛を極めて現在も全国一の生産量を誇るモザイクタイルの多彩なコレクションで知られる藤森照信氏設計の「モザイクタイルミュージアム」（多治見市笠原町）を訪れ、美濃焼で知られる「やきものまち・多治見」にとってのタイル産業の重要性と将来性について学び、これをもって旅の終わりとした。

【事業内容】

- ・日時：2023年10月28日（土）～29日（日）
- ・場所：岐阜県加茂郡八百津町・恵那市・中津川市・多治見市

＜訪問先その1＞庭文庫（恵那市笠置町河合・10月28日）

30代の百瀬夫妻が経営する古本カフェ。東京から恵那市に移住してきた元地域おこし協力隊員である妻の実希さんと、東京から故郷の同市にUターンしてきた夫の雄太さんが築100年の古民家を改装、2018年4月に開店した。人口5万程の恵那市にはチェーンの書店もあり、ネットで注文すれば居ながらにして欲しい本が手に入る昨今ではあるが、ベストセラーとは異なる予期せぬ良書に出会える古書店はなかった。古書好きが嵩じて夫妻はまずは古本カフェを開き、その後クラウドファンディングで支援金を募り、段階的に出版や宿泊業も手がけてゆきたい、と計画。良書であれば新刊書も置くようになった同店には、静けさのなかコーヒーを片手に思い思いの場所で読書や思索にふける客の姿が見られ、時には読書会や朗読会、トークショーや個展も開かれて、恵那市の貴重な“サロン”となっている。

途中、コロナ禍に見舞われつつも2020年秋には「あさやけ出版」を発足し、第1号出版物となる詩集を刊行。さらに2023年3月に1日2組限定の宿のオープンに漕ぎつけ、遠来の客に読書空間とくつろぎの時間を提供し、恵那の魅力を山間から発信している。

＜訪問先その2＞たじみDMO（多治見市本町・10月29日）

たじみDMOは2022年4月に誕生。一般社団法人多治見市観光協会と、中心市街地活性化に取り組んできた多治見まちづくり株式会社、明治初期から陶磁器の一大集積地として栄え、当時の商家や蔵が多く残る本町筋地区のまちづくりを行ってきた株式会社華柳の3者が統合した観光地域づくり法人である。人材や事業、財源を一体化したことで効率的に事業を推進できるうえ、国のDMOメニューも活用できる。

推進体制はマーケティングを行う戦略室、まちの魅力を創出するまち室、情報発信とおもてなしを担当する観光室、公共等の施設管理により財源を確保する施設総務の4部門で、主要メンバー10人程度を含む計50人ほどのスタッフを擁する。

視察当日はたじみDMOが管理運営する多治見市駅前の駅北立体駐車場やレンタルサイクル、土岐川の水を引き込み、イベント開催や市民の憩いの場となっている虎渓用水広場などを見学したあと、ながせ商店街のまちの拠点「ヒラクビル」にたじみDMOのオフィスを訪ね、観光室マネージャー・松井侑樹さんに詳しくお話をうかがった。ちなみに「ヒラクビル」は宝石時計メガネ店をリノベーションし、書店・喫茶ワーキングスペース・レンタルルームが入居、メガネのレンズを再利用した豪華なシャンデリア、地元の重要産業であるモザイクタイルをあしらったレトロでおしゃれな内装と個性的な品揃えで、2019年3月のオープン以来、高校生たちの帰りの通学路を変えたと言われるほどの人気スポットである。

たじみDMOは、多治見の観光資源は「活気あるまち」と「活気ある産業」にあると位置づけ、商業の活性化や空き店舗活用による魅力づくり、まちの情報発信やイベント運営など、市民がまちを楽しみながら地域への誇りと愛着を育めるまちづくり事業を進めている。

多治見市は名古屋のベッドタウンとしての側面もあり、名古屋からの距離の近さゆえに中心市街地から遠い観光地を訪れても、たいていの観光客は多治見ではなく名古屋に泊まる。よって美

濃焼やタイルによるブランド再構築によってまちの価値を高めつつ、観光客が多治見のまちなか観光を目当てに訪れ、多治見に泊まりたいくなるような、地元民にとっても観光客にとっても魅力ある中心市街地をめざしている。

マンション・ホテル・商業施設・立体駐車場の複合施設「プラティ多治見」を中心とした駅南地区再開発事業と駅前商店街との連携を図る一方で、ながせ商店街や本町オリベストリート一帯の空き店舗や空き家を活用してリノベーションやテナントミックスにも積極的に取り組んでいる。並行して、web サイト上に出店希望者の思いや目標、人物像を掲載して借主と貸主をマッチングする「さかさま不動産」事業に着手、まちを元気にするまちなか出店や起業・創業プランを競う「多治見ビジネスプランコンテスト TAJICON (タジコン)」も開催し、客を呼べる出店を促している。

まちあるき MAP や多治見の夏の暑さを誌名にした情報誌「A2 (あつつう)」の配布、web での情報発信にも熱心で、ながせ商店街や本町オリベストリートでは休日の歩行者通行量が大幅に増加するなど目に見えて成果を上げつつある。また、多治見のまちなかの未来を描いた「みんながえがくたじみのまちなか」という絵本仕立ての小冊子を作成、市民のまちづくりに対する意識を高め、学校の授業でもこれを活用し、将来に向けて活気あるまちづくりを担う若手人材育成の一助としている。



栗きんとん食べ比べ



庭文庫



苗木城址



たじみ DMO



モザイクタイルミュージアム



虎溪用水広場

参加者：岩田、岡本、岸田、福田、藤原、森、米谷、脇

【主担当】森副理事長、脇理事長、岡本理事

(5) 「もうひとつの旅談義」 ～旅クラブ約四半世紀の夕べ(西表島オーパ！出版記念)の実施

【事業趣旨・目的】

当 NPO 初代理事長李有師が地域と観光の関係性について持論を説いた書籍「西表島オーパ！」を出版したことを記念するとともに、「現地の生活を垣間見る」観光を推し進めてきた当 NPO の歴代理事長および新理事長も登壇し、トークを重ねることで、「もうひとつの旅とは何か？」について語り合い深める機会を企画した。



「西表島オーパ！」は、著者李が 2022 年 4 月に少し遠ざかっていた「旅」に出る決意を固め、西表島を来訪。単なる観光旅行者ではなく、期間従業員として働くことを条件に宿泊するホテルに滞在させてもらおうといった、とんでもない行動に打って出て、美しい自然の中で現地の若い人たちとの出逢いに感じた、定型化されたイメージ先行での商品化、パッケージ化された現在の観光業への問題意識を示したものである。

【事業内容】

- ・日 時：2023 年 8 月 19 日（土）18:00～20:00
- ・会 場：B 本町橋 2F
- ・参加人数：14 名（一般 7 名、旅クラブメンバー 7 名）
- ・主 催：NPO 法人もうひとつの旅クラブ



旅クラブ活動のふり返り



歴代理事長によるフリートーク（泡盛付）

【主担当】李委員、協理事長、泉理事、岩田理事、米谷理事、森副理事長、岸田副理事長

(6) 情報提供、提言活動事業

(1)～(5)の他にも、まちづくり NPO として、大阪のまちの魅力を再発見・開拓し、多くの人々と共有するために、各種情報提供や提言活動への参加などを展開した。

【SNS 等による情報提供・共有】

大阪まち遊学およびご来光カフェ等各種イベント開催時には、ブログのみならず Facebook、Instagram などにおいて、メンバー各自によるアナウンスが行なわれている。

①旅クラブ公式 HP の運用

旅クラブの活動を幅広く周知するため、2007 年に公式 HP (<http://tabiclub.org/>) を開設し、運用を続けている。2021 年には、Web システムを大幅にリニューアルして、今年度も情報プラットフォームとして運用した。PC やモバイル (スマホ・タブレットなど) といったデバイスに応じてデザインを切り替えるレスポンス対応としている (図 1)。

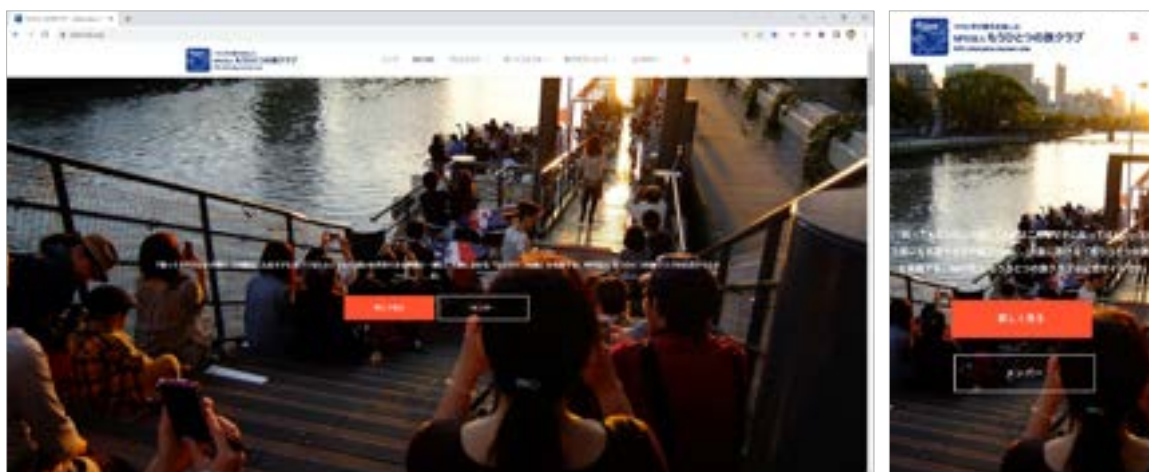


図 1 旅クラブ公式 HP (左: PC 版; 右: スマホ版)

②旅クラブ公式 SNS の運用

旅クラブの情報発信メディアとして、上述した公式 HP に加えて SNS (ソーシャルネットワーキングサービス) を運用している。

2011 年より X (旧 Twitter、ご来光カフェ)、2011 年よりフェイスブック (ご来光カフェ、大阪まち遊学。大阪まち遊学は 2021 年よりもうひとつの旅クラブ公式として大阪まち遊学を含む旅クラブの様々なコンテンツを紹介するページに変更)、2018 年よりインスタグラム (もうひとつの旅クラブ、ご来光カフェ)、2021 年より X (旧 Twitter、もうひとつの旅クラブ)、を開始しており、今期も引き続き、運用した。

各 SNS の URL とフォロワーなどの情報を以下に示す (図 2)。

- ✓ X (もうひとつの旅クラブ) 76 フォロワー (前年比+2) <https://twitter.com/osakatabiclub>
- ✓ X (ご来光カフェ) 713 フォロワー (前年比+12) <https://twitter.com/goraikocafe>
- ✓ フェイスブック (もうひとつの旅クラブ・大阪まち遊学) サイト「いいね」558 件 (前年比+17) <https://www.facebook.com/osakaopentown>
- ✓ フェイスブック (ご来光カフェ) サイト「いいね」1504 件 (前年比+173) <https://www.facebook.com/goraiko>

- ✓ インスタグラム（旅クラブ） 118 フォロワー（前年比+11） osakatabiclub
- ✓ インスタグラム（ご来光カフェ） 300 フォロワー（前年比+49） goraiko.cafe



図2 SNS（上段：もうひとつの旅クラブ公式；下段：ご来光カフェ；左列：フェイスブック；中列：ツイッター；右列：インスタグラム）

③旅クラブメンバー内の情報共有プラットフォームの整備

旅クラブメンバー同士が情報にアクセスしやすくなるようなプラットフォームの整備を試みた。

- ✓ 大阪まち遊学やもうひとつの旅など、同じイベントに参加しながらも、メンバー同士が離れた場合に連絡し合ったり、写真を手軽に共有するツールとして、LINE（ライン）のグループを作成した。グループチャット上にグループを作成することで、参加者同士がLINE上の友達でなくても参加できるようにした。
- ✓ 旅クラブ活動では、記録や記念のために写真撮影をする機会が多い。撮影した写真の共有を再利用のしやすさを含めてどうするか、が課題。そこで、旅クラブのグーグルアカウント上のグーグルフォトで共有することを始めている。



図3 内部情報共有プラットフォーム（左：LINE グループ；右：グーグルフォト）

【メディア掲載（新聞、出版、他）】

- ①毎日新聞（9月2日）
 - ・身の丈の観光「コミュニティ・リゾート」を提唱
- ②琉球新報（10月29日）
 - ・沖縄観光のプライド 「平和」を語る工夫今後も



毎日新聞（9月2日）



琉球新報（10月29日）

【主担当】福田理事、森副理事長、岡本理事

2. 旅クラブの組織活動(組織活動の充実と強化)と財源確保

(1) 組織活動、市民参加による事業促進

①会員の拡大

大阪まち遊学の参加者との交流やご来光カフェの運営ボランティアスタッフの充実などを通じ、当 NPO の活動主旨に賛同いただける方の発掘に努めた。また今年度は、名誉会員への移行が 2 名あり正会員は 18 名となったが、当 NPO の活動に関心を持っている方は着実に増えていると考える。

◇2023 年度の会員数

- ・正会員 18 名（前年度比 2 名減） 名誉会員へ移行（李氏 田尻氏）
- ・賛助会員 0 名（前年度比増減なし）
- ・名誉会員 3 名（前年度比 2 名増） 正会員から移行（鳴海氏 李氏 田尻氏）

②組織活動

昨年度と同様に運営委員会を月例で開催し、大阪まち遊学、ご来光カフェ、その他特別な事業の企画・実施方策等を協議した。

◇総会（第 21 回）の開催

- ・開催日時：2023 年 3 月 18 日（土）15 時 00 分～16 時 30 分
- ・会場：「岩田尚樹建築研究所」 NPO 法人もうひとつの旅クラブ事務所
（大阪府中央区東平 2-3-5-3F）
- ・出席：17 名（うち書面出席 7 名）欠席 3 名
- ・議案：2023 年度事業報告及び決選報告
2024 年度事業計画及び収支予算の審議
役員改選

◇理事会の開催

2023 年 4 月 1 日（土）17 時 00 分～17 時 30 分 8 名参加にて行われた。

◇運営委員会の開催

以下のとおり、理事・会員混合型の運営委員会を開催し、各事業の企画・運営協議を行った。

4 月 16 日（日）8 名参加 5 月 13 日（土）8 名参加 6 月 3 日（土）7 名参加
7 月 1 日（土）5 名参加 8 月 12 日（土）4 名参加 9 月 18 日（祝・月）4 名参加
11 月 26 日（日）7 名参加

(2) 財源確保の充実と課題

2023 年度は収入面では、ご来光カフェ 大阪まち遊学など定着化した自主プログラムをプログラム毎に収支バランスを取る原則で着実に継続し、支出面では管理費を最大限圧縮することにより、運営の基盤となる定常的な経費をまかなうことができた。

今後も多様な活動の継続や体制の強化をしていくためには自主事業の更なる魅力向上を図っていく必要がある。